

新型コロナウイルス 緊急学生応援金

事業報告書

Report

マケナイデ アリガトウ



朝日新聞厚生文化事業団

本部(東京)
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL 03-5540-7446 FAX 03-5565-1643

西部事務所
〒812-8511 福岡市博多区博多駅前2-1-1
TEL 092-477-6930 FAX 092-477-6931

大阪事務所
〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18
TEL 06-6201-8008 FAX 06-6231-3004

名古屋事務所
〒460-8488 名古屋市中区栄1-3-3
TEL 052-221-0307 FAX 052-221-5453

主催  朝日新聞厚生文化事業団 協力 社会福祉法人カリヨン子どもセンター

ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症の影響で、様々なご苦勞をされていらっしゃる方々にお見舞い申し上げます。

このたびは、社会的養護で育った学生への「新型コロナウイルス緊急学生応援金」にご理解とご協力をいただき、改めて御礼申し上げます。おかげさまで、当初の見込みを大幅に上回る1400名を超える学生から応募があり、並行して実施したクラウドファンディング等では、900名の方から1964万5936円のご寄付をお預かりすることができました。

今回の取り組みで私たちが大切にしたのは、学生にお金を届けることに加え、「あなたを応援している人が、社会にはたくさんいるんだ」というメッセージを送ることでした。学生からは、「900名もの方からのご支援や励ましは、大きな力になった」と複数の声が届きました。

また、こうした学生の存在を、多くの方に知っていただくことも目標のひとつでした。Twitterの専用アカウントを開設し、皆様に拡散をお願いしました。A-Port(クラウドファンディングサイト)では様々な機会にPRをしていただき、福祉新聞でも取り上げられ、またフリージャーナリストや他の新聞社の記者なども情報を発信して下さるなど、多くの方々にご周知いただけたことは、彼ら彼女らを見守り応援する、そんな社会の実現に向けての一步になったのではないかと私たちは考えています。

給付にあたっては、「スピード感を持って届ける」ことも重視しました。通常、このような給付金は、応募から給付までに相当の時間がかかります。しかし、今まさに生活に困っている学生に一日でも早く「応援」を届けたいと考え、書類の受理から審査、給付までの期間をできるだけ短縮しました。

一方で、事業の課題も見えました。今回、給付の対象にできなかった学生もいました。限られた時間、予算の中での取り組みには限界もあります。それでも、今後の取り組みの際には、一人でも多くの若者に支援を届ける方策を探っていきたいと考えています。

次代を担う若者や子どもたちが、生まれた環境に左右されず、夢や希望を持って歩める社会の実現のための応援団として、今後とも皆様とともに取り組むことができれば幸いです。この度は、誠にありがとうございました。

結びになりますが、事務局として運営全般に多大なご協力をいただきました社会福祉法人カリヨン子どもセンター、審査手続き等にご尽力いただいた株式会社ウイズアスの皆様に心から感謝を申し上げます。

朝日新聞厚生文化事業団

新型コロナウイルス緊急学生応援金の概要

「アルバイトが禁止となり、バイト代で生計を立てることが困難になりました」。緊急事態宣言が出された2020年4月、私たちが奨学金事業で関わりがある里親家庭出身の看護学生が自身の置かれた状況について話してくれました。

施設などの社会的養護で育った学生の多くは、親や親族に経済的支援を求められません。経済的な問題だけでなく、親から愛されなかった辛さや虐待によるトラウマ、学業のハンディなど、社会的養護のもとに育つ子ども達は壮絶な環境を生き抜いてきた例も珍しくありません。その中でも学ぶことに希望を見出した社会的養護出身の学生に対して、私たちが10年以上継続している奨学金「進学応援金」を拡充して実施したのが「新型コロナウイルス緊急学生応援金」です。一律5万円の応援金を迅速に送ることで学生たちの金銭的な不安を軽くするとともに、「ひとりじゃない」「あなたを応援している大人がいる」という応援メッセージをリーフレットにして届けました。

目的

社会的養護で育った学生に対して「給付金」と「応援メッセージ」を届けることで、
学業を継続するための一助となること

対象

社会的養護の出身で日本国内の大学、短大、専門学校等に応募時点で在学中の学生。
本事業は、高校卒業資格のある方が対象(高等学校卒業程度認定試験合格者を含む)

※社会的養護とは、児童養護施設、里親家庭(ファミリーホーム)、自立援助ホーム、子どもシェルターとします。
※当事業団の奨学金や他団体の経済的支援を受けていても応募できます。(併給可能)
※里親家庭などの実子は対象としません。
※一時保護でのみ社会的養護を利用した方は対象になりません。
※養子縁組をしている場合は対象になりません。
※措置延長中の方、自立援助ホームなどに現在入居中の方も対象になります。

給付金額

一律5万円(返還不要)

受付期間

2020年5月15日～6月30日

主催:朝日新聞厚生文化事業団 協力:社会福祉法人カリヨン子どもセンター

ご寄付について

当事業を多くの人に知っていただくために朝日新聞A-portを利用したクラウドファンディングでご寄付を募る呼びかけをいたしました。皆様からの温かいご支援・ご声援を受けて本事業に対する寄付金総額は19,645,936円となりました。ご理解とご協力に感謝し、厚く御礼申し上げます。内訳は下記のとおりです。

ご寄付の種別	寄付金額	寄付件数
A-port (クラウドファンディング)	13,884,439円	724件
直接寄付	5,761,497円	176件
合計	19,645,936円	900件

緊急学生応援金の給付結果について

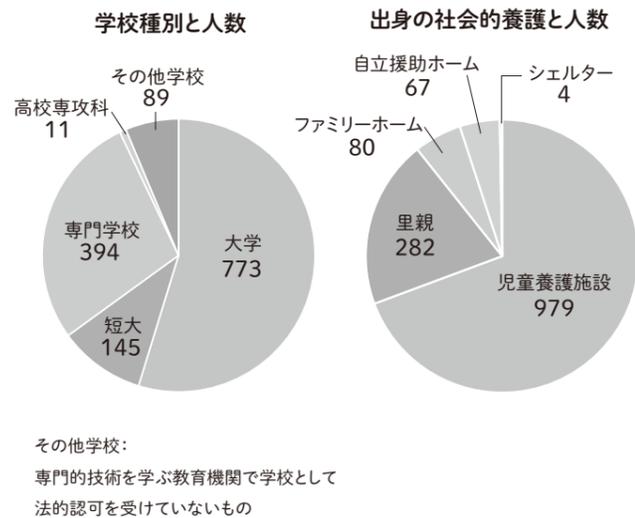
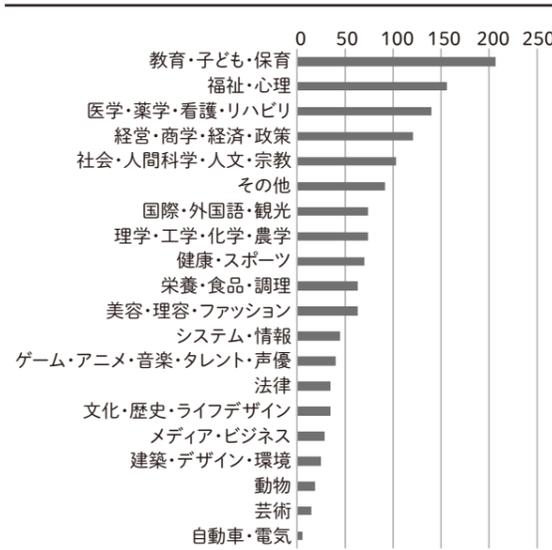
12年間にわたり給付型奨学金事業を実施してきた当事業団の経験を生かし、社会福祉法人カリヨン子どもセンターの協力を得て、社会的養護(児童養護施設、里親家庭、ファミリーホーム、自立援助ホーム、子どもシェルター)の環境から巣立ち、大学や専門学校等で学ぶ1412名の学生に対して一律5万円の応援金と応援メッセージを送付いたしました。給付総額7060万円は皆様からのご寄付と朝日新聞厚生文化事業団が拠出しています。

学生たちが育った社会的養護の出身種別は、児童養護施設が979名と最も多く、次いで里親家庭282名、ファミリーホーム80名、自立援助ホーム67名、シェルター4名です。学生が所属する学校種別は、大学が773名と最も多く、次いで専門学校394名、短期大学145名、その他学校89名、高校専攻科11名です。

学生の専攻は、「教育・子ども・保育」が最も多く、次いで「福祉・心理」、「医学・薬学・看護・リハビリ」が続きます。

給付総額	7060万円
大学	773名
短期大学	145名
専門学校	394名
高校専攻科	11名
その他学校	89名
合計	1412名

専攻と人数

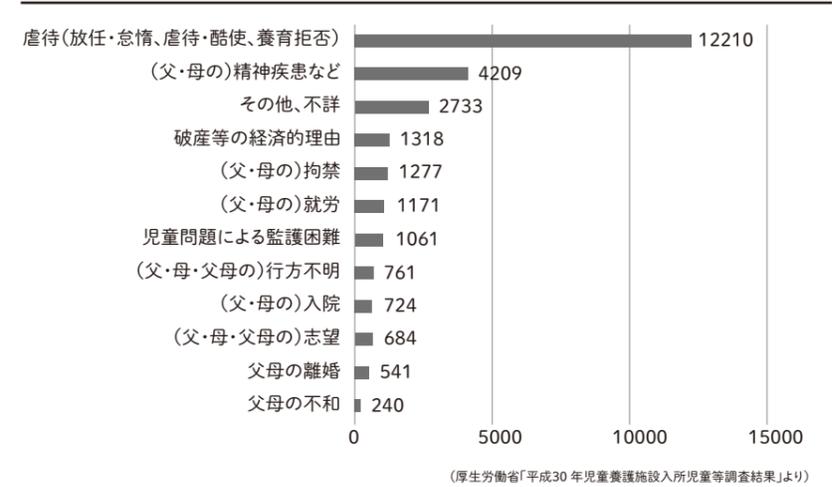


「社会的養護」とは

社会的養護とは、さまざまな理由で親と暮らせない児童に対して、公的な責任として社会的に養護を行うことをいいます。日本全体で約4万5千人の子ども達が社会的養育のもとに暮らしています。

厚生労働省の調査によると、養護問題発生により家庭での生活が困難だとみなされて社会的養護に至る背景には親の死亡や行方不明、離婚、拘禁、入院、精神疾患、虐待、経済的理由などがあります。その中でも虐待は約4割を占めています。虐待とは一般的に親の養育拒否、放任、怠惰、酷使などを指しており、児童相談所が把握する虐待件数は増え続けています。

児童養護施設への措置理由



社会的養護は「子どもの最善の利益のために」「社会全体で子どもを育む」という基本理念の元に、さまざまな規模や形の養育を推進しています。養育環境は大きく2つに分類されており、施設で児童を育てる「施設養育」と、家庭的な環境で児童を育てる「家庭養育」があります。新型コロナウイルス緊急学生応援金の給付を受けた学生の多くは「児童養護施設」または「里親家庭」の出身です。

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施設養育 <ul style="list-style-type: none"> ● 乳児院 ● 児童養護施設 <ul style="list-style-type: none"> — 小規模グループケア — 地域小規模児童養護施設 ● 児童自立支援施設 ● 児童心理治療施設 ● 母子生活支援施設 ● 自立援助ホーム ● 子どもシェルター など | 家庭養育 <ul style="list-style-type: none"> ● 里親 <ul style="list-style-type: none"> — 養育里親 — 専門里親 — 養子縁組里親 — 親族里親 ● ファミリーホーム(小規模住居型児童養育事業) ● 特別養子縁組 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

児童養護施設とは 原則2歳から18歳までの児童を養育する施設。全国に約600カ所あり、2万5千人の児童が施設で生活しながら学校に通う。戸建て住宅を利用した「小規模グループケア」「地域小規模児童養護施設」を運営している施設もある。

里親とは 4人以下の要保護児童を養育することを希望する家庭が、都道府県知事からの委託によって児童を家庭的環境で養育すること。登録里親数は約1万2千世帯あり、約6千人の児童が里親のもとで養育されている。(養子縁組した場合は里親ではなくなる)

「私たちは、ひとりじゃない」リーフレットへの反響

応援金を申し込んだ学生から同じ状況にある仲間に対して応援メッセージを募り、「マケナイデ～私たちはひとりじゃない～」と題したリーフレットにして届けたところ、以下のような反響を受け取っています。

- 「頑張っている仲間がいることで、私も頑張ろうと思えます。」
- 「同じ状況の人が、この国にたくさんいることを知ることができ、すごく心強く思いました」
- 「メッセージをみてたくさんの方が新型コロナウイルスの影響で窮屈な生活を送っていることを知りました。なので、1人で乗り越えようとせず、また、前向きに生活していこうと思えました」



社会的養護で育ち大学や専門学校で学ぶ私たちから、支援者の方々へ

私は大学で福祉を学ぶ学生です。コロナの影響でひとりである時間が増えて、頼れる家族もいないため、人に会えないことがすごく寂しくて孤独を感じました。ひとりである事に不安がたくさんあります。でも、周りには支えてくれる人がいて「ひとりじゃない」と思えることが今の支えです。夢を諦めず頑張りたいと思います。

(愛知県・日本福祉大学・3年)

私は2020年4月に大学に入学しました。給付型奨学金で足りない分はアルバイトをして学生生活を送るつもりでしたが、学生寮がクラスターになることを避けるためにアルバイト禁止となりました。この先、学び続けられるのか不安を感じていたときに、児童養護施設でお世話になった職員さんから応援金のことを教えてもらいました。こんなに多くの方が私たちを応援してくださり、見守ってくださっていることを肌で感じて、より前向きに頑張ろうと思えました。将来、私も人のために活動できる人になりたいと強く思いました。ありがとうございました。

(大阪府・関西福祉科学大学・1年)

コロナの影響で経済的な不安を感じていたので応援金に応募しました。自粛期間中は外出ができず、学校にも行けない状況だったので、学力を身につけることができるのか、将来への不安を感じました。そんな中、自分たちのために金銭面や温かいお言葉での支援をありがとうございます。頑張っ乗り越えようという気持ちが強くなりました。

(埼玉県・神田外語学院・1年)

応援金とメッセージを ありがとうございます



新型コロナウイルス緊急学生応援金

私は2020年4月に沖縄県立芸術大学音楽学科に入学した学生です。音楽を学ぶために出身地から離れた大学に進学しましたが、コロナの影響で授業が始まらず、ピアノの練習もできないのでとても困りました。学業を続けられるのか不安もありますが、こんなにたくさん応援してくださる方がいる事を知って、あきらめないで頑張ろうと強く思いました。また、応援メッセージを読んで同じ境遇の人たちがいることを知り、私も諦めないで頑張ろうと思いました。

(沖縄県・沖縄県立芸術大学・1年)

私は児童養護施設からの連絡で応援金のことを知りました。これまではアルバイトの収入で生活費を賄っていましたが、コロナの影響でアルバイトができなくなり、経済的な不安を感じました。また、普段は当たり前のように会っていた人たちと急に会えなくなったことも心細く感じました。精神面でも経済面も苦しい状況ではありますが、私たちを支えて下さる方々がいることに感謝して、今後も頑張っていこうと思います。そして同じ状況で頑張っている仲間たちと共に頑張っていこうと思います。

(愛媛県・聖カタリナ大学・2年)

コロナの影響でさまざまな面で不安を感じましたが、人と会えないことが一番不安に感じました。親しい人との会話が私の心の支えになっていたため、精神的に不安定になるかと思いました。なので、皆さんからの温かい励ましや援助を頂いたことで、とても元気づけられました。こんな状況なので大学に行くことはできませんが、それでも勉強を頑張ろうと思えました。ありがとうございました。

(東京都・明治学院大学・4年)

私は里親からの連絡で応援金のことを知りました。コロナの影響で健康面や経済的な不安を感じただけでなく、親しい友人やサッカーを通じた仲間とも会えないため、メンタル面やコンディションに不安を感じていました。そんな中、応援金を通してたくさんの方に支えて頂き感謝しています。みんなで手を取り合い、協力して乗り越えろしか道はないと思います。コロナの終息を願いながら、自分の行動に責任を持って頑張りたいと思います！

(東京都・早稲田大学・2年)

支援者からの応援メッセージ

クラウドファンディングでは多くの方々からご寄付と温かいメッセージをいただきました。その一部をご紹介します。

微力ではありますが心を込めて賛同させていただきました。
皆様の活躍を応援し、お祈りしております。

高校の教員です。経済的な理由で学びを継続できない生徒さんを見て、
何度もやるせない思いをしてきました。少しでも力になれるように！

受け取られる学生さんたちに「君たちはひとりじゃないよ」と伝えたいです。
コロナに負けずがんばろう！私もがんばります。

どんな境遇でも学び続けること、
それが人を豊かにします。応援しています！

給付金の一部を子どもたちのために寄付したいと考えていたところ、
新聞の広告で見つけ迷わず決めました。

若いうちの学問は、絶対に人生にプラスとなります。
負けずに頑張ってください。微力ながら応援します。

私も大学生の時は勤労学生をしていてギリギリの生活でした。
夢を、未来を諦めないで下さい。応援しています！

昨年まで養育里親をしていました。応援しています！

遠慮なく社会に援助を求めて下さい。
あきらめないで下さい。応援しています！

社会的養護で暮らす学生さんが困窮の度合いが強いと聞いて、
何かできる範囲で支援できれば、と考えていました。
支援の機会を作ってくださいありがとうございます。

年金生活者からのささやかな応援です。

10万円の使い方を悩んでいたところこちらのクラウドファンディングに出会いました。
素晴らしい企画をありがとうございます！応援しています！

海外からも応援しています！

私自身、大学へ行く余裕もなく満足に食べるのも大変だった時期があります。
僅かばかりですが、一人でも多くの大人の支援が集まり、
一人でも多くの学生さんの未来が繋がります事を願っています。

子供の頃にDVをうけて自殺まで考えたことのある私です。
色々世の中ありますが、1人じゃないと思って欲しくて少しですが
応援させてくださいました。自分らしく、自分にしかできない
何かを掴むために、どうか精進してください。

私も休業中で収入が足りない状況ですが、
僅かですが支援させて頂きました。
応援しています！共に頑張りましょう。

私は片親でしたが、働かない親だったので大学に合格したにも関わらず、
入学金が無く入学できなかったのも、同じ思いをして欲しくないと思い
賛同致しました。心から応援しています。

応援しています！私もこうした学生への支援措置が
社会的な制度として確立していきまうように、
汗をかきたいと思えます。また、具体的な情報をお知らせいただけるとありがたいです。

子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく、
自分の能力を発揮できる社会の構築を願います。
少しでもお役に立てれば嬉しいです。卑い活動、頑張ってください。

我が家も特別養子縁組で縁があった息子がいます。
少しでもお力になればと思います。

社会的養護から巣立った学生さんが少しでも安心して
学生生活が送れますように陰ながら応援しています。

私も奨学金で高校・大学を卒業できました。
今回のコロナは経験したことのない事態です。
乗り切って学業を続けてください。

応援しています！わずかなお金ですが、
子供たち、若者たちの支援に結びつきますように。

これからも希望する全ての方が就学出来るよう
活動を頑張ってください！微力ながら応援させていただきます！

その他のメッセージは朝日新聞厚生文化事業団のホームページ
(<http://www.asahi-welfare.or.jp/archives/2020/05/ouen-202005-01.html>)で紹介するとともに、「みんなのチカラに」と題したリーフレットとして学生に届けたところ、以下のような反響を受け取っています。

- 「応援して下さる方がたくさんいることを知って、諦めないで頑張ろうと強く思えました。」
- 「自分たちのために金銭面や温かいお言葉での支援をして頂きありがとうございます！」
- 「こんなにも多くの方が私たちを応援してくださっていることは、今まで知らなかったです。ありがとうございます。」

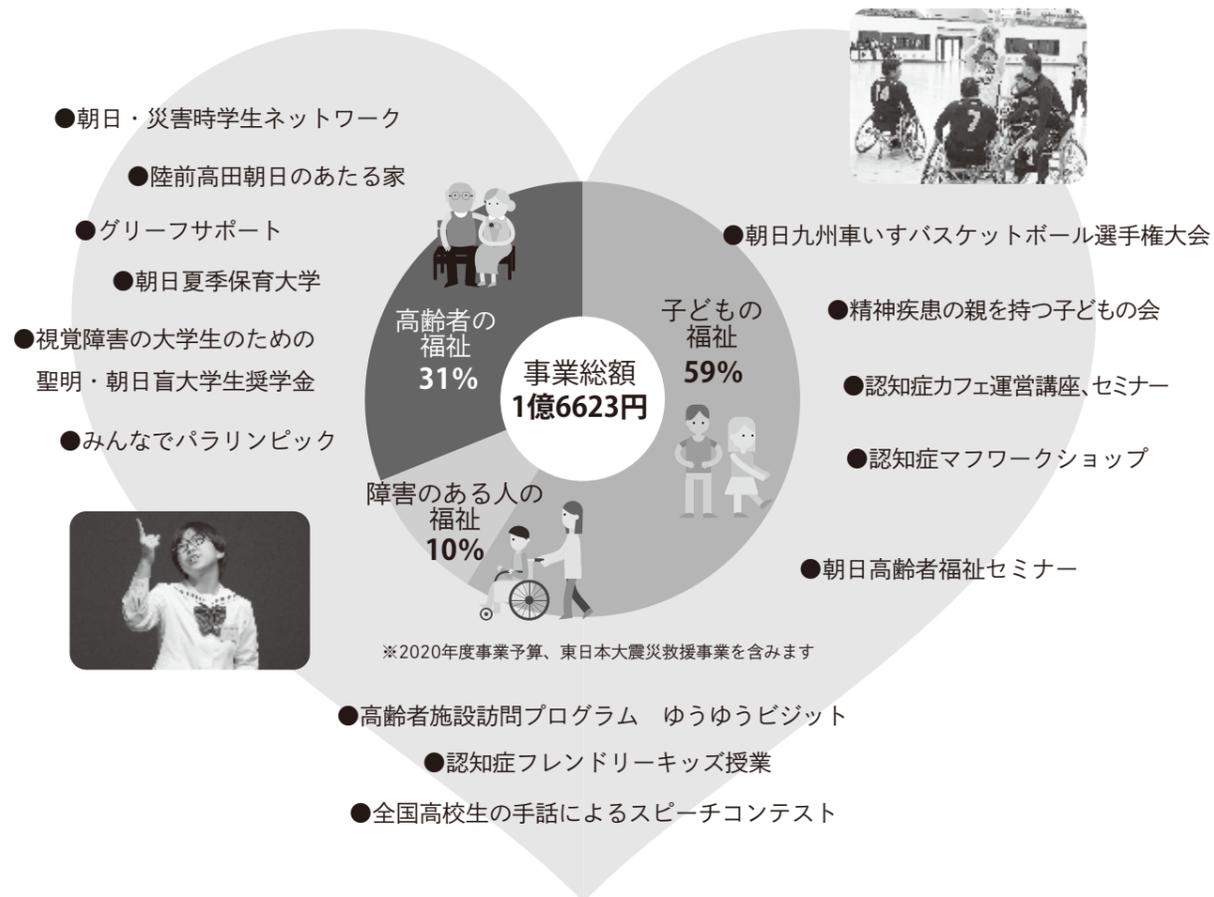


皆さまに支えられ、今年で92周年

朝日新聞厚生文化事業団は1923年(大正12年)の関東大震災の被災者支援をきっかけに創設されました。

「かけがえのない子どもたちへ」「豪雨被害の方へ応援の気持ちを…」

温かいメッセージとともに、2019年度は8000人余りの方がご支援くださいました。一人でも多くの方に必要な支援が届けられるよう、下記のように幅広い社会福祉事業を実施しています。これからも、皆さまのお気持ちをしっかりと受け止め、誰もが安心して暮らせる社会のために役立ててまいります。



—ご支援・ご声援をありがとうございました—

朝日新聞厚生文化事業団の「応援金」事業

●児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金

児童養護施設で育ち大学等で学ぶ学生を対象とする応援金。2008年から現在までに約400名を応援。

●東日本大震災子ども応援金

震災によって両親を亡くした子どもを対象とする応援金。年齢に応じて150～300万円を給付。現在までに約200名を応援。

●自立援助ホーム・シェルターまなび応援金

虐待などを受けた子どもと若者を対象とする応援金。高校等への就学や資格取得を支援。2020年5月新設。

新型コロナウイルス 緊急学生応援金

事業報告書

2020年9月15日 発行

発行者 社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団

執筆協力 井上エリコ

デザイン・イラスト かえるぐみ